

B型肝炎 全国原告団結成



国会議員に原告の窮状を訴える窪山寛さんと薫さん
(東京・永田町の衆院議員会館で) —浦郷明生撮影

国会議員に支援要請

乳幼児期に受けた集団予防接種での注射器の使い回しでB型肝炎ウイルスに感染したとして、国に損害賠償

余命3年「国の謝罪見たい」

結成集会には九州原告団12人が参加。余命は3年ないと宣告された福岡市東区の個人タクシー運転手窪山寛さん(62)は「全国原告に勇気をもたらした。国に勝つまでは死ねない」と決意を新たにされた。

窪山さんは2007年11月、肝がんが診断され、B型肝炎への感染が判明した。肝臓の3分

福岡の窪山さん

の1を切除したが、昨年8月に再発した。今月19日、新たに5ミリのがん細胞が見つかった。

「あと3年、生きられるでしょうか」。主治医に意を決して尋ねると、「厳しいかもしれない」と言われた。手術を来月3日に延期し、妻の薫さん(61)と駆けつけた。つえをつきながら国会議員に訴訟への支援やすべ

た。九州訴訟原告番号20番の福岡県の主婦(59)は、茨城県に住む長男(30)と母子で原告団に加わった。「仕事で集会に参加できなかった。長男の分も」と精神的に議員会館を回り、「母子感染して親子で苦しんでいる人たちがたくさんいる。その悲惨な状況を知ってほしい」と訴えた。

償を求めたB型肝炎訴訟で、各地で提訴した患者や遺族が22日、東京都内で全国原告団を結成した。原告団は結成集会後、国会議員に訴訟への支援などを求めた。

同訴訟は、福岡や東京など9地裁で計241人が提訴。九州原告団は91人で、症状に応じて1人当たり1650万〜6600万円(大分県)は「原告数が最も多い九州が先頭を切った。結成集会では、各地の訴訟経過を報告後、九州、東

京、札幌訴訟の各原告団長3人を共同代表に選出した。就任した佐藤美好(九州原告団長(59)(大分県)は「原告数が最も多い九州が先頭を切った。結成集会では、各地の訴訟経過を報告後、九州、東